

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

臨 時 報  
千葉県農林水産部  
平成30年11月15日

## 来年に向けた準備を始めましょう

### [ これからの管理のポイント ]

#### ■ イネばか苗病

ばか苗病菌の胞子は、収穫した稲わら、米ヌカ、もみ殻等に存在し、翌年の水稻種子生産にも大きな影響を及ぼします。

優良種子の生産のため、県下全域でのばか苗病対策に御協力をお願いします。

- (1) 種子伝染しますので、種子更新をしましょう。
- (2) 本病の発生ほ場は秋耕し、稲株を土中に埋没して、菌密度を下げましょう。
- (3) 本病の発生ほ場から収穫した稲わら、米ヌカ、もみ殻等は本菌が存在している可能性が高いです。浸種や催芽、は種をする作業場や機具機材をよく清掃して、菌の密度を下げ、感染リスクを下げましょう。

※全農千葉県本部トップページには種子消毒紹介VTRが掲載されています。

(<https://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html>)

#### ■ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

本年も、九十九里沿岸の地域を中心にスクミリンゴガイの被害が多発しました。

スクミリンゴガイは、用排水路でも越冬し、ほ場への侵入源となることから、用排水路の清掃等、地区全体で防除を実施すると防除効果が高まります。

収穫直後など土が硬い時にロータリーで耕うんを行うと貝の破碎効果が高まります。また、厳寒期は、ほ場を乾かしロータリーで耕うんすることで、越冬中の貝を破壊すると同時に、寒気にさらすことで防除効果が高まります。耕うんは走行速度を遅くし、回転数を早くします。スクミリンゴガイは土中の浅いところで越冬しているため、浅く細かく数回耕すと、貝の破碎効果が高まります。

更に詳しい防除法についてはスクミリンゴガイ被害防止対策（安全農業推進課）を御覧ください。( <https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html> )

### 飼料用米の取組のお知らせ

30年産以降、国による「米の生産数量目標」の配分は廃止されましたが、米の需要量は減少傾向にあるため、引き続き米の生産調整が必要です。

- ・米価安定のために、引き続き飼料用米等に取り組みましょう。
- ・飼料用米は助成制度の充実した多収品種が断然有利です。

過去に掲載した内容、水稻栽培の基本情報、病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。( <https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/> )

## 高温に負けない米づくり～「コシヒカリ」～

今年は4月から8月までの平均気温が観測史上最高で、夏だけでなく生育期間を通して高温となりました。この生育期間全体の高温により、特に「コシヒカリ」において、くず米の増加による減収や白未熟粒の発生による外観品質の低下が一部で認められました。次年度以降、高温に負けない米作りを行うために、次のことを参考にしてください。

### ○ 稲わらを早期にすき込む

稲わらの分解が遅いと、次作の植付後に還元害が発生しやすくなります。また、6月中旬頃の最高分げつ期頃に地力窒素が過剰に発現することによって過繁茂となってしまいます。秋の早い時期にすき込みを行い稲わらを分解させましょう。

### ○ 前半の生育を過繁茂とさせない

近年、植付後の気温が高く、生育前半が過繁茂になりやすい傾向にあります。前半の生育が過繁茂になると、生育後半に稈が伸び、穂数や籾数が過剰となるため、倒伏やくず米の増加を助長し、収量と外観品質の低下を招きます。莖数が18～19本/株（坪55～60株植えの場合）を超えたら、中干しを行いましょ

### ○ 出穂期前後の栄養状態を良好に保つ

出穂期前後に窒素肥料が不足すると光合成によるデンプンの生産が停滞し、小粒で粒張りの悪い米となります。特に前半の生育が過繁茂のほ場では、後半の稲の栄養状態が悪くなり、出穂期前後の葉色が淡くなりやくなります。出穂期前後の葉色が淡くなった状態で夏が高温となると、くず米や白未熟粒が増えて、減収や検査等級格下げの危険性が高まります。

「コシヒカリ」は出穂期の葉色が、SPAD値で36（葉色スケールで4.5）以下であれば、食味は低下しません。葉色に注意して、幼穂形成期7～15日後頃の間（幼穂長1～8cm）に穂肥を施用し、出穂期前後の稲の栄養状態を良好に保つことで、粒張りのよい米を目指しましょう。

### ○ 出穂期後25日までは間断灌漑を

今年の8月は高温に加えて、風も強く吹きました（月平均の風速は観測史上2番目の強さ）。このため、出穂後に水不足になってしまったほ場では、水ストレスにより白未熟粒が発生しました。出穂期後14日は「湛水管理」を行い、出穂期後25日まで「間断灌漑」を行いましょ